東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2009年12月11日

スンナを守ること。

親愛なるムスリムの皆様。敬愛する預言者（彼に平安があれ）が、２３年もの間、預言者としての使あ命を果たす過程で、様々な事柄について語ったすべての言葉や行ったすべての行動、命令や禁止事項、そして承認されたことされなかったこと、さらに彼の生活や徳、そして人柄に関して伝えられたすべてがハディース、つまりスンナと名づけられています。学問的な文献において類推の用語として使われているハディースとセンナは、クルアーンに次ぐイスラームの第二の源です。したがってムスリムはスンナに従うべきとされています。このことについてクルアーンでは、『使徒が汝らに与えるものはそれを受け、汝らに禁じるものはやめなさい。』**1**と語られ、イスラームにおいてスンナは、宗教上の判断の根拠であることが強調されています。さらに『使徒に従う者は、まさにアッラーに従う者である』**2**『本当にアッラーの使徒は、アッラーと終末の日を熱望する者、アッラーを多く唱念する者にとって、立派な模範であった。』**3**とその他の節においてもスンナの重要性が語られています。

兄弟姉妹の皆様。聖預言者は、クルアーンと同様にスンナを重視して送る生活は、人を正しい道と幸福へ導くと述べました。一方でスンナに背いて送る人生は、人を迷わせ、正しい道を逸脱し、最終的に困難に落ち入ると言いました。預言者ムハンマドは、晩年に述べられた一つのハディースでは『私は汝らに、それをしっかり摑んでいれば迷うことのない２つのものを残した。アッラーーの書（クルアーン）とアラーの使徒のスンナである』**4**と伝えられました。アッラーの使徒は私達に委託品かつ貴重な遺産として残ったスンナを実際の生活において実践した場合、宗教が活用され、一方でスンナに背いてそれを放棄した場合、信仰や生活が腐敗すると忠告しています。さらにこのことにまつわる別のハディースにおいて、『人が宗教から離れるのは、スンナの放棄から始まる。太い綱はすこしずつ崩れはじめ、最終的に切れてしまいます。人は同様にスンナから離れ始め、やがて宗教から完全に離れてしまう』と述べられています』**5**。

親愛なるムスリムの皆様。スンナは、アッラーから送られた最後の経典であるクルアーンを解釈するものとして、我々の宗教において重要な役割を果たしています。したがってクルアーンに命じられたイスラームの信条である礼拝の仕方、断食の方法、ザカートに何をどれだけ与えるか、そして巡礼をどのように行うかなどについてはすべてハディースから学びます。信仰についてのより詳しい知識もハディースから学びます。預言者ムハンマドが日々の生活において実践し、ムスリムが従うべき道徳的な規範はクルアーンにおいては、基本的なことだけが説かれています。細かいところに関しては、ハデースによって説明されています。つまりスンナを無視してクルアーンの多くの節を理解し、イスラームの教えに乗っ取って生活を正しく送ることは不可能だということです。預言者ムハンマドの生き方であるスンナを大切に思い、そして尊敬し、それを守って日々の生活において実践することは宗教上の任務です。スンナに基づいて送った行為は、私達を聖預言者へ近づけ、そのお方に似せ、そして彼の愛情を得る媒介となります。さらに最後の審判の日において彼のシャファーアを獲得ための理由となり、彼のウンマ（共同体）の中に私達が入る手段ともなります。こうした理由からスンナを大切に取り扱い、日常生活において聖預言者の振る舞いを模範にして人生を送りましょう。

聖預言者がこの点について述べられた幾つかのハディースを紹介し、本日のホトバを終えたいと思います。『誰であれ、われのスンナ（生き方）に背いた場合、その者は私の仲間ではない』**6**。『われのスンナを愛し、それを生か人は、私を愛しているということです。私を愛した人は、天国で私と共にいます』**7**。

[1] 第59章7節

[2]第4章80節

[3]第33章21節

[4] ムワッター"カダル", 3.

[5] ダーリミ, "ムカッディマ", 16.

[6] ブハーリ "結婚", 1.

[7] ティルミズ"イリム",16